

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

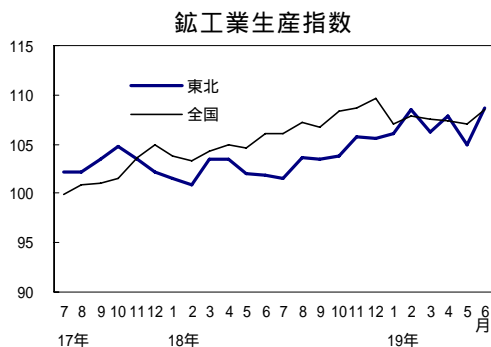
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 5 月）	今回（平成 19 年 8 月）	
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、固定コンデンサなどが低調に推移したものの、携帯電話向けのサーミスタ・バリスタや車載向けのコネクタなどが好調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。食料品・たばこは、生菓子や水産練製品などが低調に推移したことから減少している。情報通信機械は、携帯電話・PHSや入出力装置、パソコンなどが低調に推移したことから減少している。一般機械は、国内外向けの半導体製造装置やデジタル家電向けの金型などが好調に推移したことから増加している。電気機械は、工業用計測制御機器、電気測定器などが低調に推移したものの、開閉制御装置や乾電池などが好調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	19.3	8.3	0.1	1.5	7.8
食料品・たばこ	12.9	1.8	1.8	2.5	1.9
情報通信機械	11.6	3.0	7.2	8.0	4.0
一般機械	8.6	2.0	7.3	8.7	1.2
電気機械	5.8	1.8	0.1	3.9	12.5
鉱工業	100.0	1.7	0.2	0.4	4.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

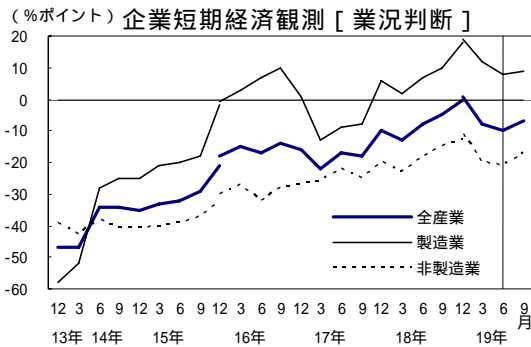
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

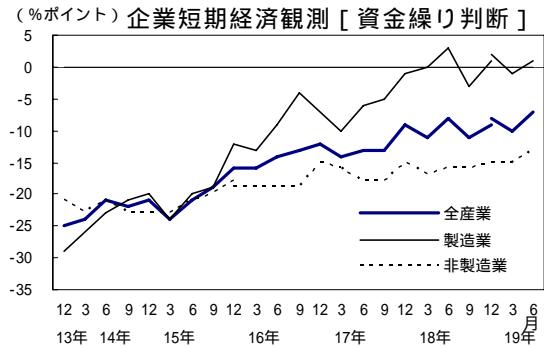
2. 平成19年6月の東北は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

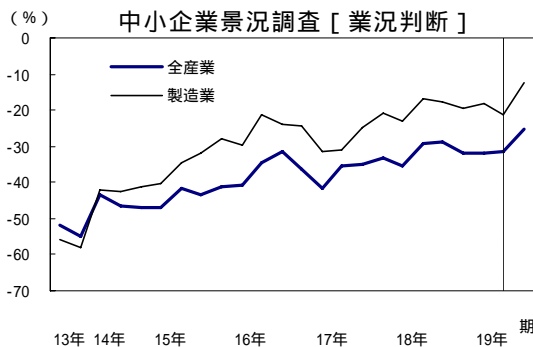
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

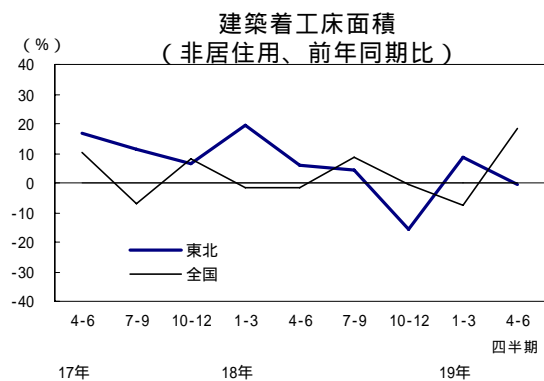
「当社の製品が組み込まれる、携帯電話、パソコンなどの分野に今一つ勢いが無い。当面は情勢を静観する(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	16.7(8.3)	13.6(5.2)
製造業	22.8(15.0)	42.8(7.2)
非製造業	10.9(0.2)	17.2(1.6)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

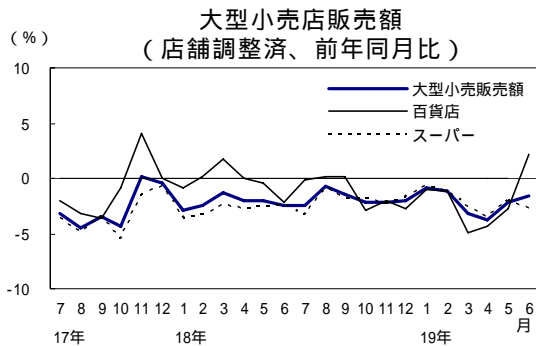
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、気温が低めだったことから春物衣料全般が伸び悩み、飲食料品も生鮮食品が振るわなかったことから前年を下回った。5月は、婦人用ワンピースやハンドバック、婦人靴、菓子などに動きがみられたが、中旬以降の天候不順などから衣料品全般が伸び悩み、前年を下回った。6月はクリアランスセールの前倒しの効果に加え、気温も高めに推移したことから、夏物衣料やハンドバック、婦人靴が増加し、9か月ぶりに前年を上回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の7月の売上高は前年同月比で6.2%減となっている。スーパーは、酒や果物が好調に推移したものの、生鮮食品は振るわず、衣料品もワンピースや浴衣が伸びたものの全般的に振るわなかったため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

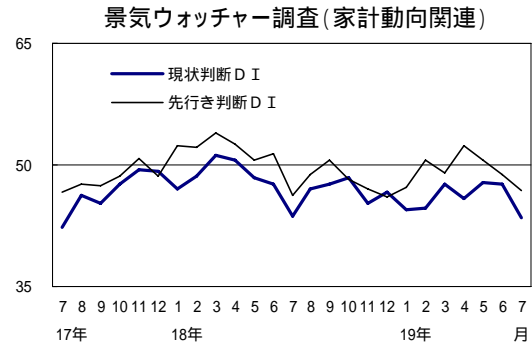
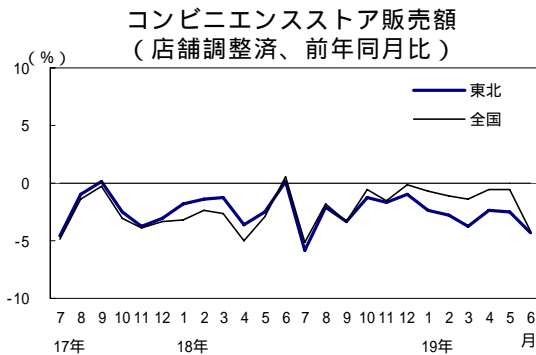
「原油高の影響に加え、うなぎやしょうがなど中国製品への疑念による国産品への消費シフトが、一品単価の上昇に拍車をかけている。しかし、7月の客単価、買上点数は依然前年割れが続いている。商品の品質に対する客の視線は一層厳しさを増している(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	1.5	2.1	1.7	2.5
百貨店	0.0	2.6	2.4	1.7
スーパー	2.0	2.0	1.4	2.7
コンビニ	3.7	1.3	2.9	3.1
景気ウォッチャー	46.1	46.7	45.5	47.1

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

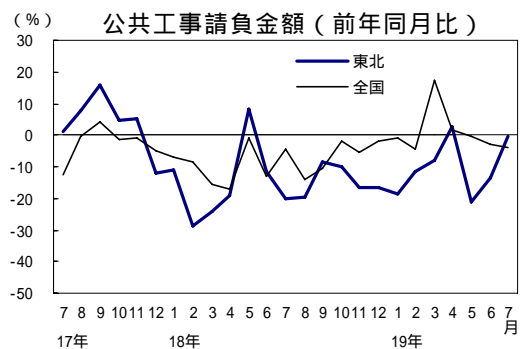
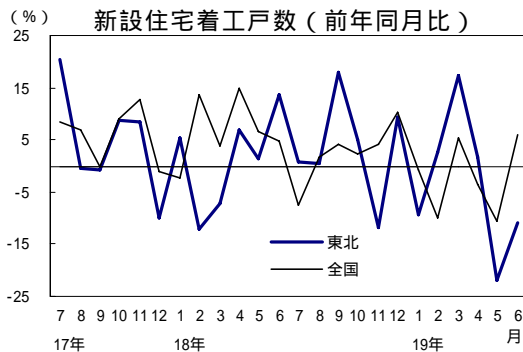
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲は前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

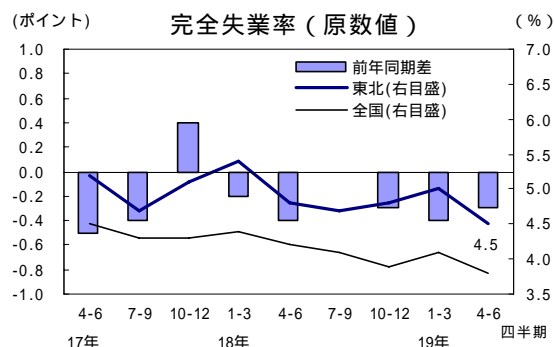
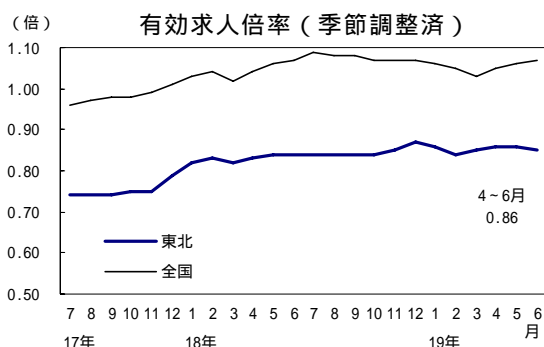


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

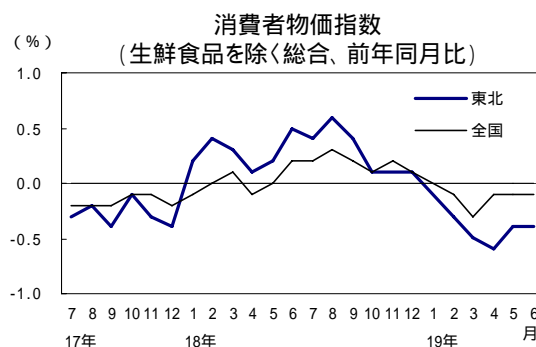
「仙台では、直接雇用につながる前提の紹介予定派遣がまだまだ少ない(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	255	224	233	250	72
（前年比）	2.8	2.8	3.6	6.8	14.3
負債総額	810	681	907	1,411	242
（前年比）	17.6	7.2	25.5	96.0	21.8



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・中越沖地震では、休業はあったものの翌日からの販売は増加した。全体的には、来客数は前年並み、一品単価が下落傾向である（スーパー）。

<先行き>

・中越沖地震による震災や台風被害の復興作業が続く。現在も生産が追いつかないほどの状態である（土石製品製造販売）。

景気ウォッチャー調査（合計）

